

パーフェクトセット 取り扱い説明書

(TYPE / PFST-HP-01)
(TYPE / PFST-HPVD-01)



写真は組み立て参考図です。
お好みの状態で各部をセットして頂いても結構です。

〒600-8885 京都市下京区西七条南月読町 71-6

株式会社 サン京都

TEL (075) 315-2808 (代) FAX (075) 321-1895

目次

○ 基本機	組み立て方法	P 3
○ ガン掛け	組み立て方法 ①	P 4
○ ガン掛け	組み立て方法 ②(机直接固定式)	P 4
○ ガン掛け	組み立て方法 ③(机固定土台式)	P 4
○ ドライヤースタンド	組み立て方法	P 7
○ 薬品棚	設置方法	P 8
○ スチームガン掛け (オプション)	設置方法	P 8
○ ハイパーシルクガン	設置方法	P 9
○ //	接続方法(標準型)	P 10
○ //	接続方法(連動型)	P 12
○ 吸引台	設置方法	P 13
○ 照射ランプ	取付方法	P 14
○ 吸引機本体	設置方法	P 15
○ //	メンテナンス	P 17
○ //	故障かなと思う前に(パキュームシステム編)	P 20
○ ハイパーシルクガン	説明書	P 21
○ //	故障かなと思う前に(シルクジェットガン編)	P 25
○ パワースチームガン (オプション)	説明書	P 26
○ //	故障かなと思う前に(パワースチームガン編)	P 29
○ //	黄変抜き薬品 説明書	P 30

【仕様】

吸引機本体	1050W/100V
ドライヤースタンド	1200W/100V (HIの場合)
ハイパーシルクガン	40W/100~220V × 2台
パワースチームガン	60~500W(起動時)/100V (オプション)

【設置必要寸法】

- 【机600×1200】 幅1370mm × 奥行き680mm × 高さ1770mm

【付属品】

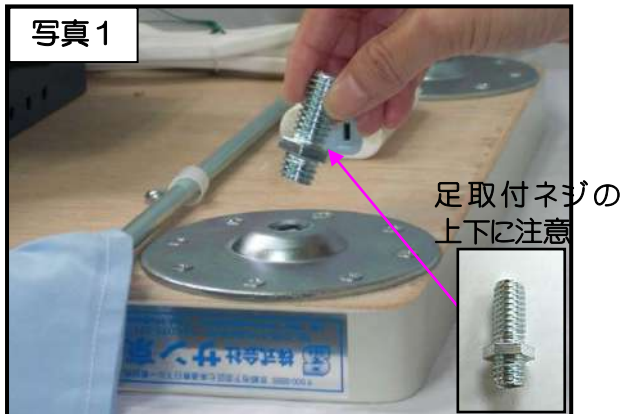
- 排気ホース7m (内径38φ、外径45φ)
- 水用ポリタンク(4L) × 1
- 各種薬品 (No.0一般油性) (No.1特殊油性) (No.2水性タパック) (No.3水性タニン)
- ◎ (No.104-A・B・C黄変抜き用) (オプションにてスチームガンを追加された場合)
- 六角レンチ
- インシュロック

【その他必要品】

- エアホース … 内径4mm×外径6mmウレタンチューブ使用(別売)
(オプションにてエア付ガンに変更された場合)

基本机 組み立て方法

まず初めに、平らな場所で机裏に足取付ネジ及び
ハイパーシルクガンのコントロールBOXを取り付けます。



裏面取付金具

【机組立方法】

- ①初めに足取付ネジを机の裏面取付金具に上下の向きに注意して、17mmのレンチ等で確実に締め付けて下さい。(短い方が裏面取付金具) (写真1参照)
 - ② その後に足を取付けます。
- ※ 足の下に付いているアジャスターで高さ調整が出来ます。

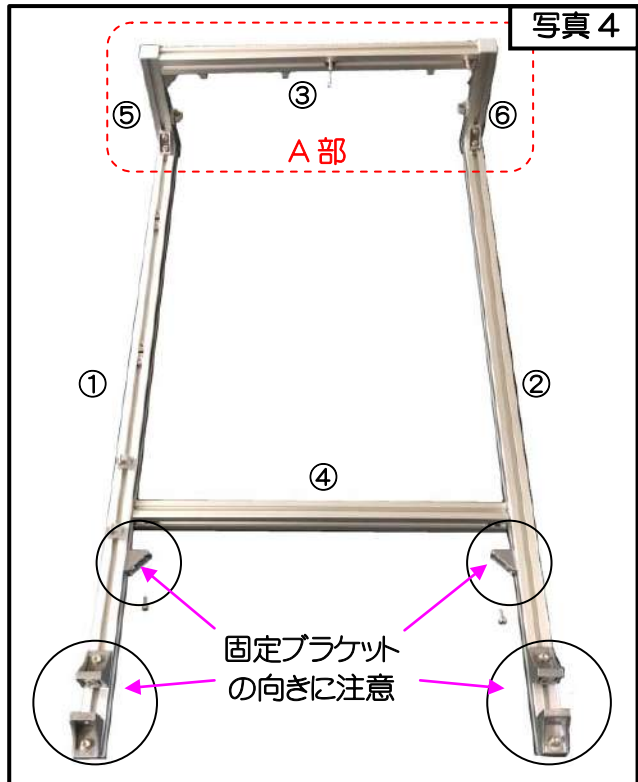


【コントロールBOX 取付方法】

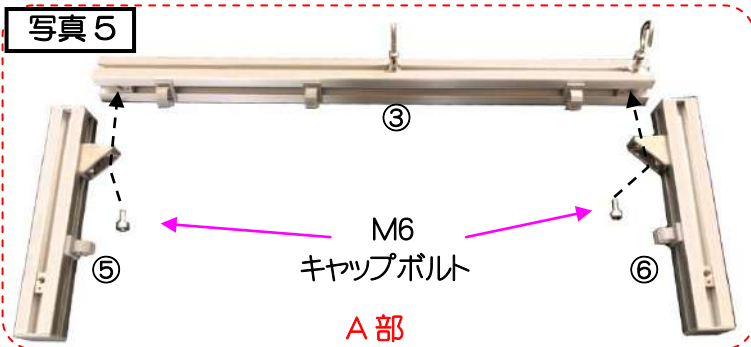
- ① 机裏の指示してある場所に、ガンコントロールBOXの前面が机の手前側に向くように付属のビスで取り付けます。(写真2)

ガン掛け 組み立て方法 ①

まず初めに、平らな場所で下記を参考にガン掛けを組み立てます。

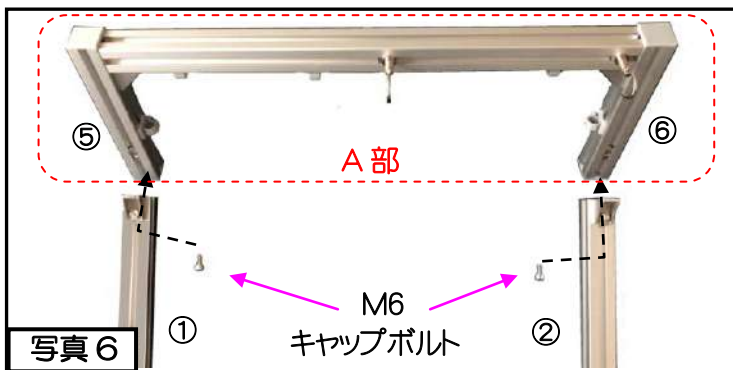


平らな場所でこの状態まで組み立てます。



① A部を、角度や面に注意しながら付属の六角レンチを使用してM6キャップボルトでしっかり固定します。

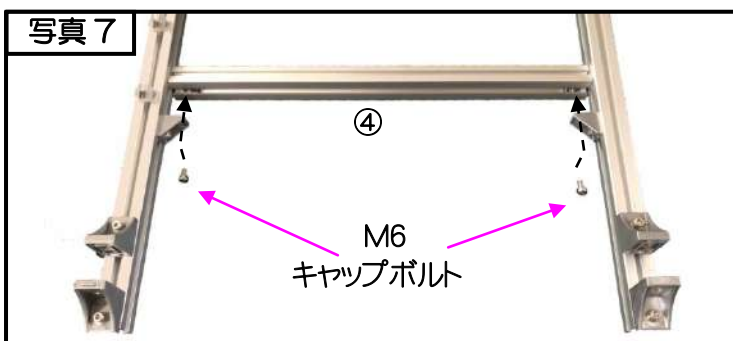
(写真5)



② ①で組んだA部を、縦軸①・②にM6キャップボルトを使用して固定します。(写真6)

この時、写真4を参考にして、固定ブラケットの向きに注意して組んで下さい。

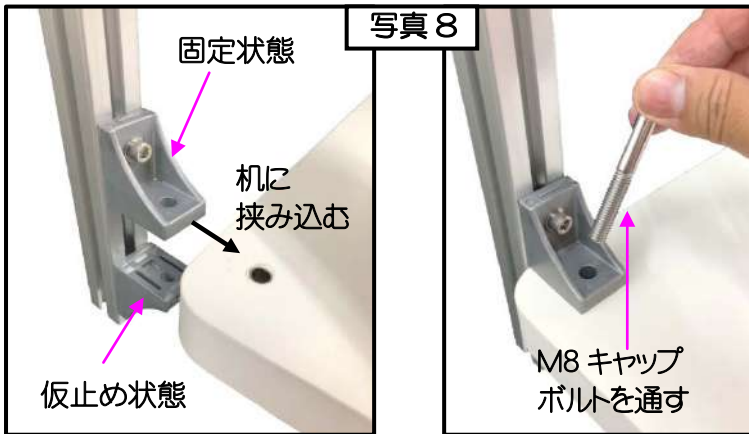
縦軸①②に取り付ける⑤⑥軸の取付位置により、ガンを吊るす前後の位置の調整が出来ます。



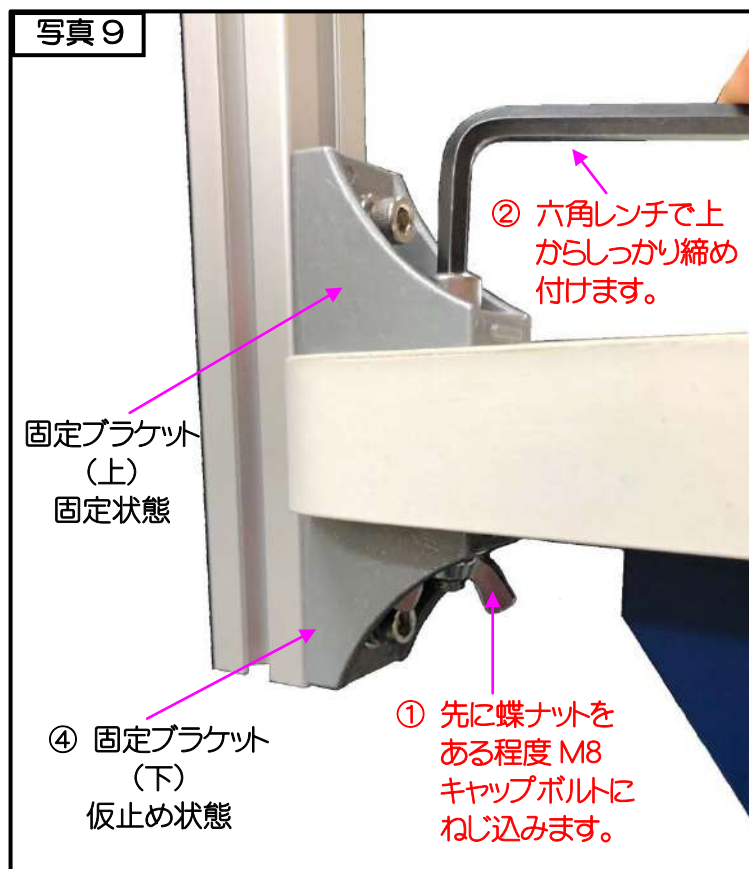
③ 上記で組んだセットに、④の横軸をM6キャップボルトを使用して固定します。(写真7)

ガン掛け 組み立て方法 ② (机直接固定の場合)

組み立てたガン掛けを机に固定します。



- ① ガン掛け組み立て方法①で組み立てたガン掛けユニットを机に挟み込み、上から M8 キャップボルトを通します。(写真 8)



- ② まず初めに M8 キャップボルトの下部に蝶ネジをある程度ねじ込みます
- ③ その後は上から六角レンチで M8 キャップボルトをしっかり締め付けます。(蝶ネジは固定ブラケットの左右の壁に当たり回転しないので、下から工具で押さえる必要が御座いません)
- ④ この時、固定ブラケット(下)はまだ固定されてなく仮止めの状態になっています。(写真 9)

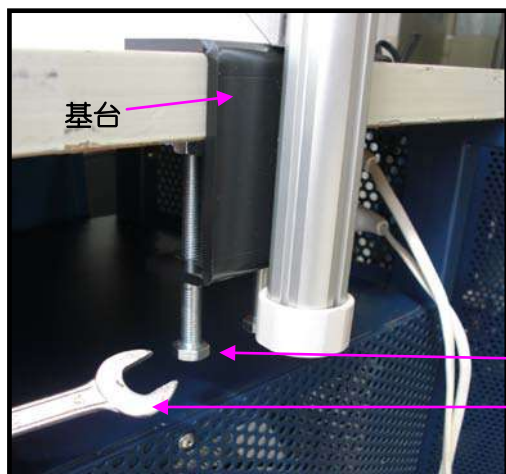


- ⑤ M8 キャップボルトをしっかり締めた後、固定ブラケット(下)をしっかり固定します。

- ⑤ M8 キャップボルトでしっかり締め付けた状態で、次に固定ブラケット(下)をしっかり固定します。(写真 10)

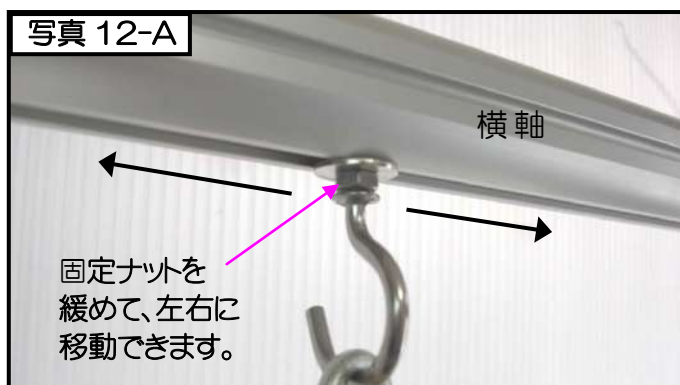
ガン掛け 組み立て方法 ③ (机固定土台使用の場合)

組み立てたガン掛けを机に固定します。

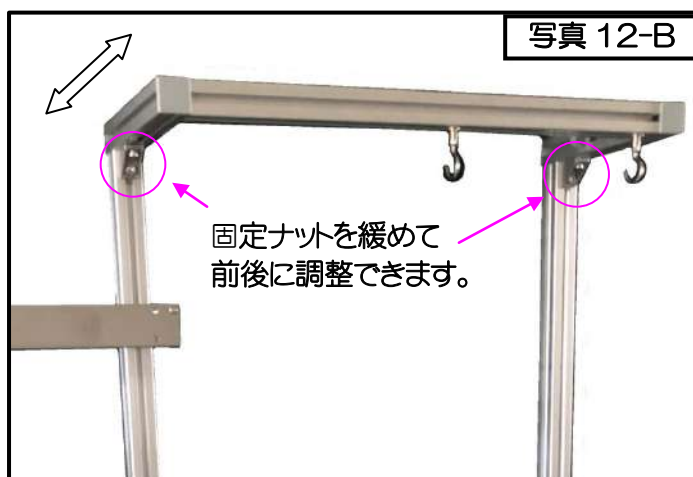


- ① ガン掛け組み立て方法①で組み立てたガン掛けユニットに付いている机固定土台を机に挟み込み、13mmのスパナ等を使用して固定ネジでしっかり固定して下さい。
(写真 11)

ガン掛け 調整方法



- ① 横軸に取り付けてあるガン掛けフックは、用途に合わせて左右に移動できます。
(写真 12-A)

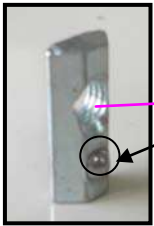


- ② ⑤⑥軸に取り付けてある固定ナットを緩める事により、写真 6 の A 部を用途に合わせて前後に移動できます。

(写真 12-B)

ドライヤースタンド 組み立て方法

写真 13



ボールベアリングが溝の奥に入るように挿入する。

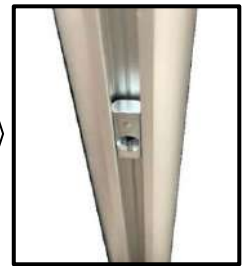
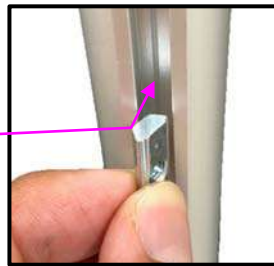
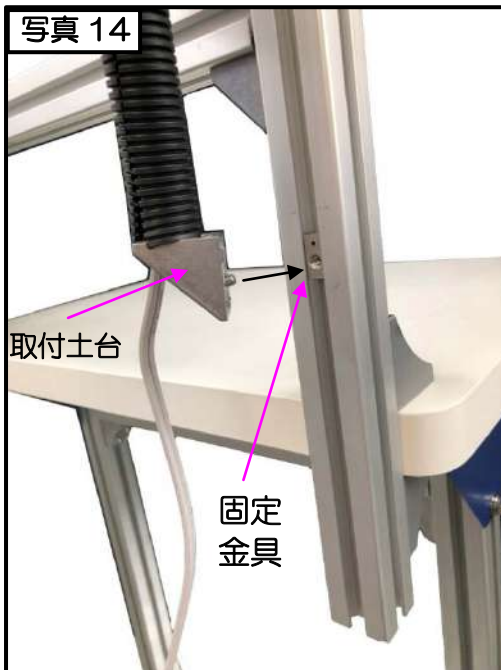


写真 14

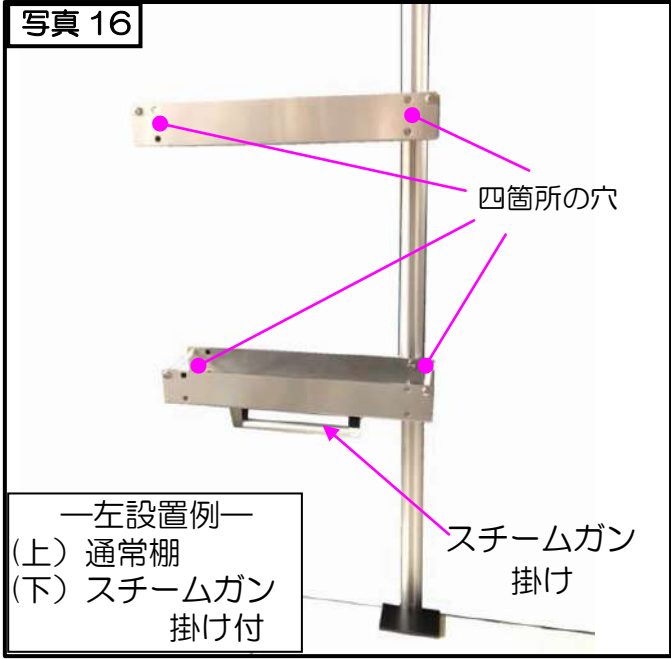
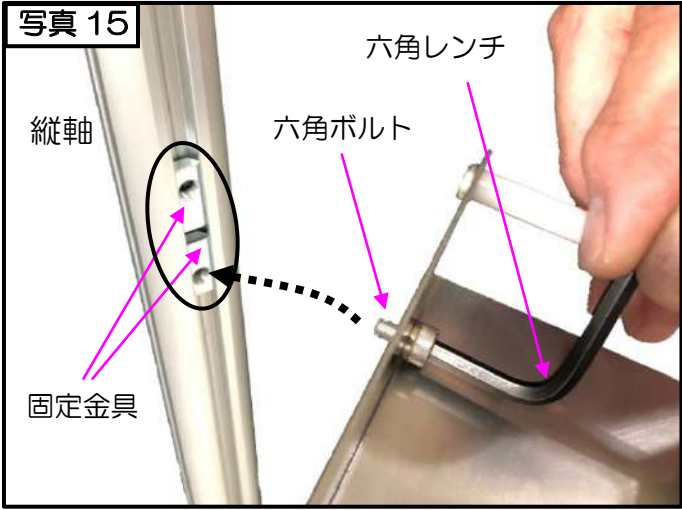


- ① 固定金具のボールベアリングが付いている方を縦軸の溝の中側に入るように差し込みます。
この時、固定金具を入れた溝の下方に指を入れて、金具が落ちないようにします。(写真 13)
 - ② 細い棒のようなもので固定金具を真っ直ぐに入れ直します。
(ボールベアリングが効いてますので金具は落ちません。)
 - ④ 六角レンチを使用して固定金具にドライヤースタンドの取付土台をしっかりと固定します。(写真 14)
- ※ ドライヤースタンドは、縦軸の前面・後面・側面どこでも取り付けられます。
お好みの位置に取付けてご使用下さい。

ドライヤー設定方法

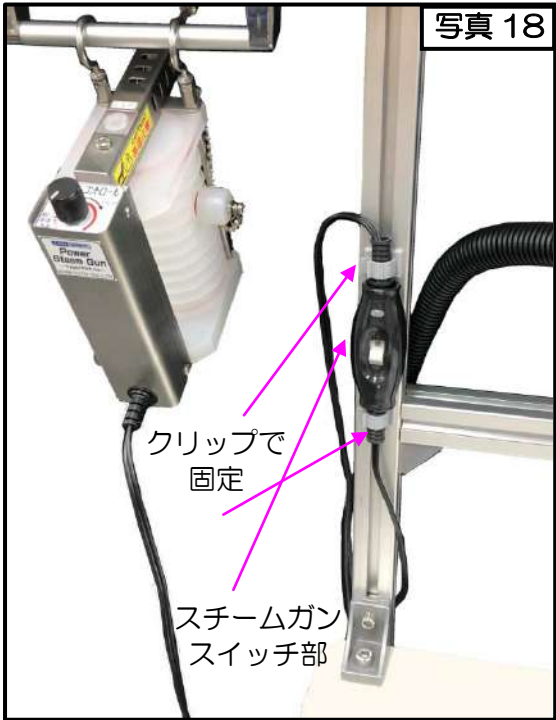
- ドライヤースタンドのコードをフットスイッチのコンネクターに一度接続してから、机裏の100Vのコンセントに差し込んで下さい。
(吸引機本体と一緒にコンセントにならないように注意して下さい。)
- ドライヤーのスイッチはONの状態にしておき、フットスイッチでON/OFFして御使用下さい。
(HOT/HIの状態が、乾燥が早く使い易いと思われれます。)

薬品棚 設置方法



- ① 付属の六角レンチを使用して、縦軸に入れてある固定金具に六角ボルト×2本で薬品棚をしっかり固定します。(写真 15)
- ② 棚は、下段はパワースチームガン掛けが付いているタイプを取り付けて下さい。(写真 16)
- ③ 薬品棚は、棚の四箇所の穴を利用して左右お好きな状態に取り付ける事が出来ます。その場合は固定金具を移動してご使用下さい。(写真 16)

スチームガン 設置方法 (オプション)



- ① スチームガンのスイッチ部をガン掛けの縦軸に付いているクリップで固定して下さい。
 (写真18)
 (スイッチ部のパイロットランプが確認できて
 消し忘れを防げます。)

ハイパーシルクガン 設置方法

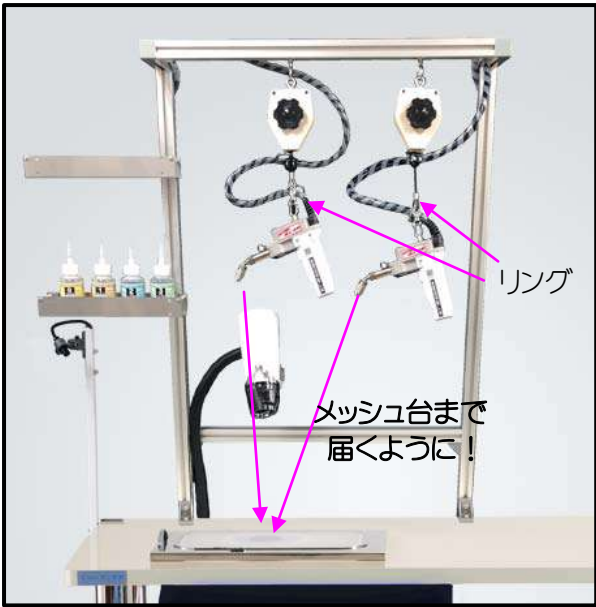
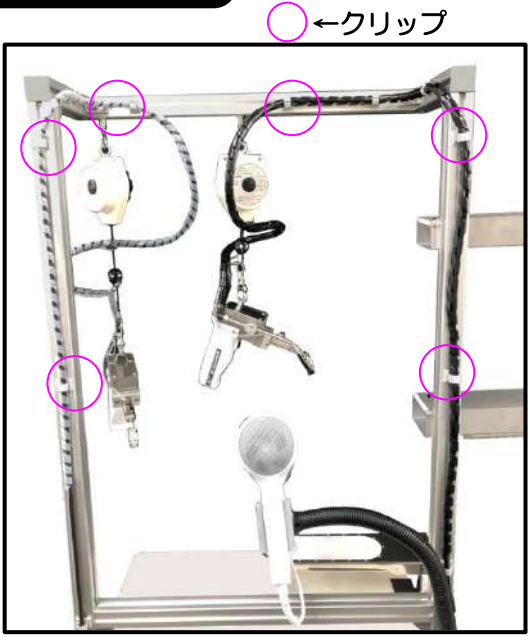


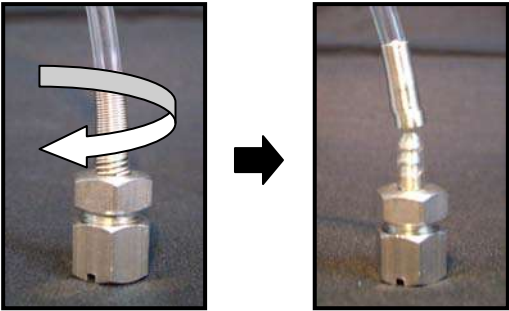
写真19



機械の裏面から見た図

- ② ガン掛けのフックに balanser を吊るしてからシルクビートガンを取付けて下さい。
- ② ビートガンのエア付&エア無しを作業のやり易い位置の balanser にセットして頂き、**メッシュ台迄届くか**確認しながら、ガン掛けの軸裏に取り付けてあるクリップでコードとホースを固定して下さい。(写真19)
- ③ 付属のリングを使用して、コード・ホースを balanser のワイヤーに沿わすように止めて頂くと、作業時に邪魔にならずに便利です。
- ④ 各吸引用ホースは、付属の水用タンク及び一斗缶に直接入れて下さい。

写真20



{ホース先端ストレナー}

- ① ハイパーシルクガンのホースを任意のタンク又は一斗缶の穴空きキャップに通される場合は、(写真20)を参考にストレナーとホースの接続部のスプリングを時計回転させながら引き抜いた後、ホースを引き抜いて下さい。ホースに取付ける場合は逆の手順で行って下さい。

写真21



右に回すと
引上げ力が
強くなります



引きながら
左に回すと
引上げ力が
弱くなります



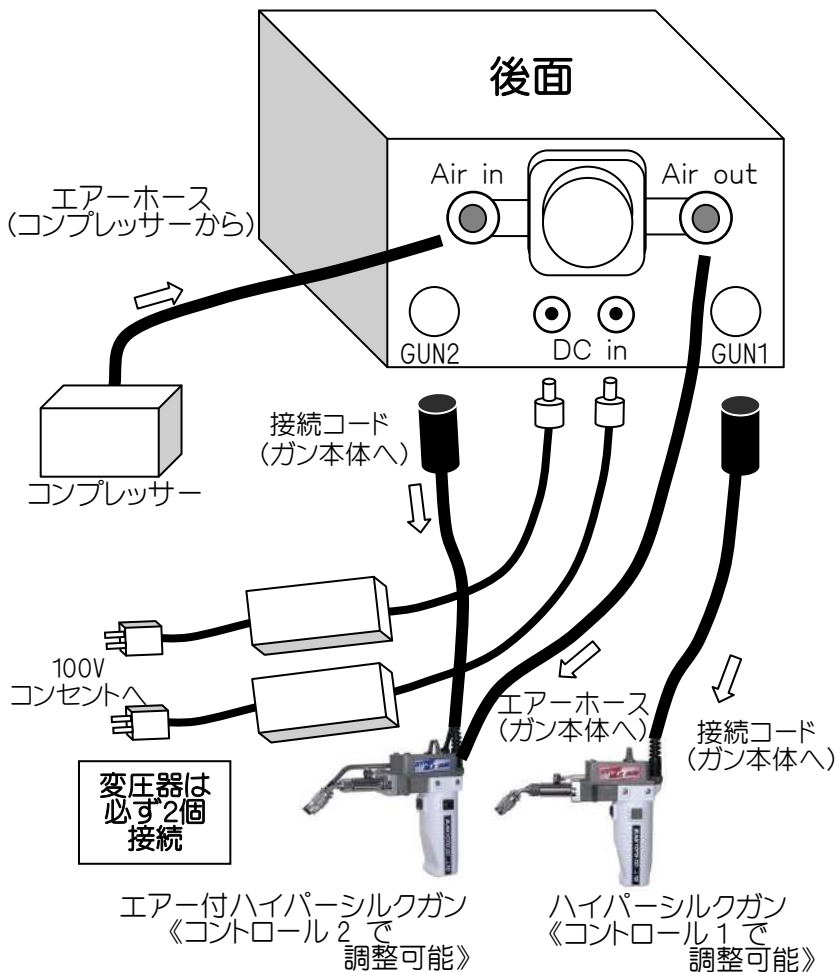
{バランサー調整方法}

- ① バランサー裏面のダイヤルを右へ回すと、引き上げる力が強くなり、また逆にダイヤルを引きながら左へ回すと弱くなります。(写真21)用途に合わせて調節して御使用下さい。

ハイパーシルクガン 接続方法 ①

— 標準型BOX (オプションにてエア付追加) の場合 —

写真 22



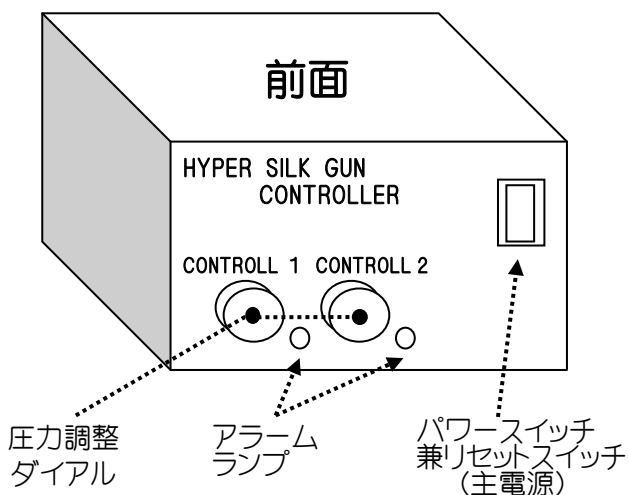
【ハイパーシルクガン接続方法】

- ① コントロールBOX裏面のDC INのコネクターに付属の変圧器を必ず2個接続して下さい。
- ② GUN 1及び2のOUT PUTコネクターにBOX表面のコントロールボリュームで調整するそれぞれのハイパーシルクガンの電源コネクターを接続してください。(GUN2はエア付 <主に水性>)
- ③ エア付の場合は、(図 22)を参考にして間違わないように接続して下さい。ハイパーシルクガンとコンプレッサーの接続は4×6のウレタンチューブ(別売)にて、コントロールボックス裏面のクイックジョイントに接続します。(図 22)クイックジョイントを変更すると他のホースでも使用可能です。(2分ネジ使用)

エアの圧力は5kgf/cm以下で御使用下さい。5kgf/cm以上ある場合は、減圧弁にて下げて下さい。またエアの中に水が混ざっている場合はエアフィルターを付けて下さい。

標準型BOX (エア無2台) の場合は、上記説明書のエア関係を省いたものをご理解頂ければ幸いです。

写真 23



【使用方法】

- ① 前面のコントロールボリュームにて、各ガンの圧力を調整してご使用下さい。
- ② 何らかの形でBOXに異常が発生した場合は、各コントロールボリューム右横のアラームランプが点灯します。その場合は一度 Power Sw を OFF にして暫く経ってから電源を入れ直して下さい。(POWER SW がリセットスイッチの機能も兼ねています)(図 23)

【注意】

一度リセットした後でも、頻繁にアラームランプが点灯する場合はBOXの異常が考えられますので、ご購入店又は弊社にご連絡頂きますようお願いいたします。

ハイパーシルクガン 接続方法 ②

— 連動型BOX 《オプション》 の場合 ① —

(ガン部)

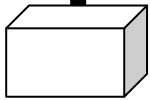
- ① コントロールBOX裏面のDC INのコネクターに付属の変圧器を必ず2個接続して下さい。
- ② GUN 1及び2のOUT PUTコネクターにBOX表面のコントロールボリュームで調整するそれぞれのハイパーシルクガンの電源コネクターを接続して下さい。(GUN2はエア付【主に水性使用】)
- ④ エア付の場合は、(写真24)を参考にし、6×4のエアーホースを間違わないように接続して下さい。



(AIR IN)
コンプレッサー
からの
エアーホース
を接続
して
下さい

【注意】
ガン 1台使用時
でも、変圧器は
必ず2個接続
して下さい。

(AIR OUT)
ハイパー
シルクガンへ
行くエアー
ホースを接続
して下さい。



コンプレッサー



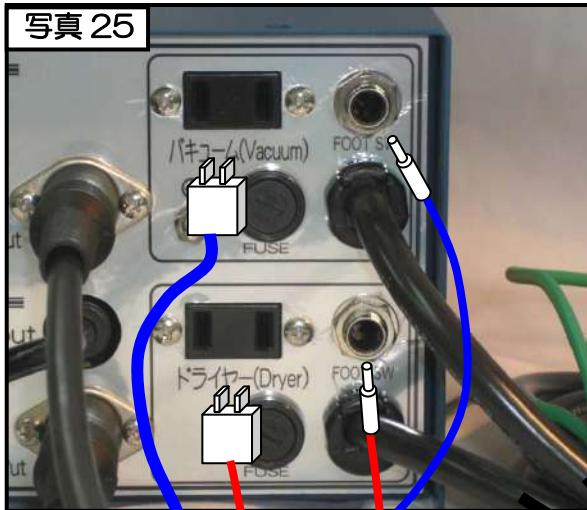
ハイパーシルクガン

(バキューム・ドライヤー部)

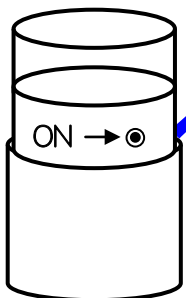
- ① コントロールBOX裏面のバキューム用コンセントに、バキューム本体より出ている100Vの電源コードを接続して下さい。
- ② バキューム用コンセント右横のフットスイッチ端子に、付属のフットスイッチを接続して下さい。
- ③ 上記と同様に下段のドライヤー用のコンセント及びフットスイッチ端子にもドライヤー及びドライヤー用フットスイッチを接続して下さい。(写真25)

注意

接続した機器の電源スイッチはONの状態にしておいて下さい。

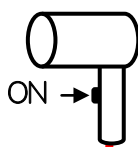


バキューム本体



フット
スイッチ

ドライヤー



机裏の
コンセントへ

— 連動型BOX 《オプション》 の場合 ② —

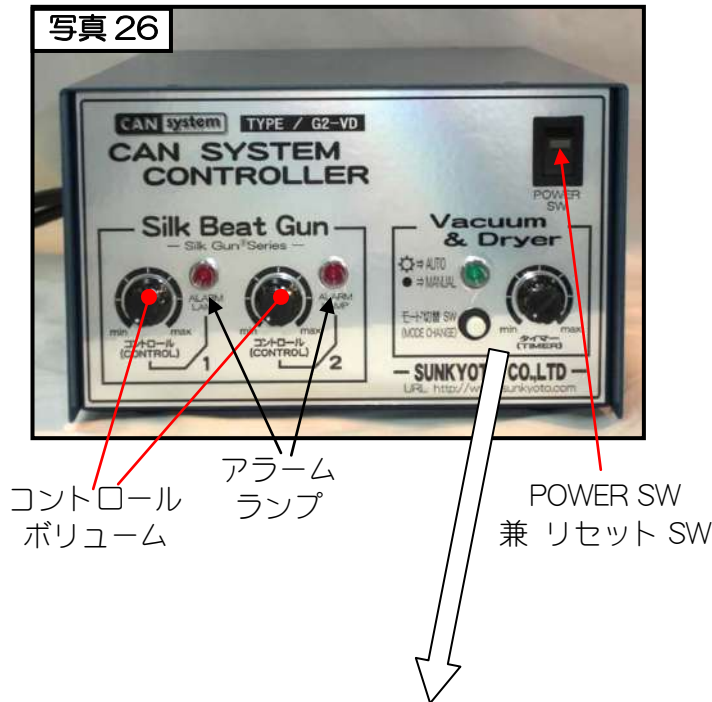
【連動BOX 操作方法】

(ガン部)

- ① 前面のコントロールボリュームにて、各ガンの圧力を調整してご使用下さい。
- ② 何らかの形でBOXに異常が発生した場合は、各コントロールボリューム右横のアラームランプが点灯します
その場合は一度 Power Sw を OFF にして暫く経ってから電源を入れ直して下さい。
(POWER SW がリセットスイッチの機能も兼ねています) (写真26)

【注意】

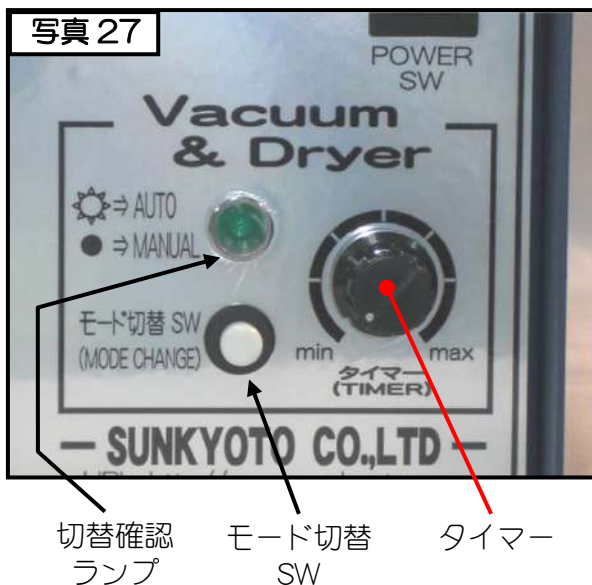
一度リセットした後でも、頻繁にアラームランプが点灯する場合はBOXの異常が考えられますので、ご購入店又は弊社にご連絡頂きますようお願いいたします。



(バキューム・ドライヤー部)

- ① モード切替 SW を押すと上の切替確認ランプが点灯しON(AUTO)になります。
- ② AUTOの状態でガン又はエアのスイッチを入れるとバキューム&ドライヤーが同時に作動します。
- ③ ガンの操作を終えるとタイマーにより任意設定した時間後に自動的にバキューム&ドライヤーが切れます。

(写真27 参照)



【連動BOX 操作特徴】

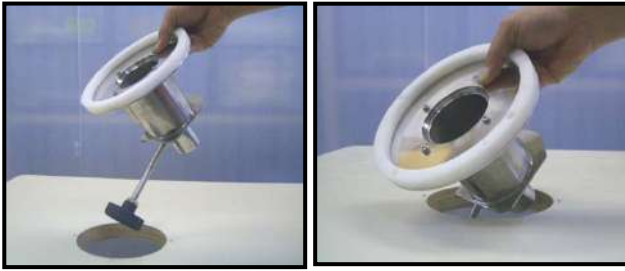
AUTO MODE(連動) (モード切替 SW ⇒ ON)

- 1) ガン又はエアのSWを押すことによって、バキューム&ドライヤーが連動して作動します。
 - 2) ガン又はエアのSWを離れた後、タイマーによって設定した時間でバキューム&ドライヤーが自動的に停止します。
- ◎ AUTO MODE時でも、個別のフットスイッチにてバキューム&ドライヤーを別々にON/OFFをする事が出来ます。

【注意】

AUTO MODEでバキューム&ドライヤー作動時に、フットスイッチにて手動ON/OFFさせると、その機器に対しては一時的に手動モードになり、タイマーで設定した時間で停止しなくなります。ただ、その状況でガン又はエアのSWを押すことによって自動的にAUTO MODEに復帰し自動停止するようになります。

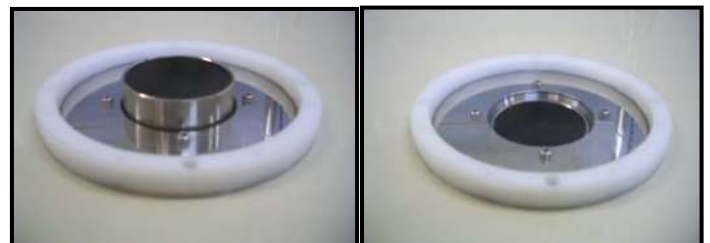
吸引台 設置方法



- ① 写真28を参考に机の上方より埋込型吸引台を穴に落とし込んでください。
- ② 中心吸引口上下レバーが机の手前に来るようにセットして、上から付属のビスで机に固定して下さい。この時、締め付けが甘いと吸引台の上に上部移動メッシュを置いた時にお互いが干渉してスムーズに動かなくなる場合がありますのでご注意ください。

【吸引台使用方法】

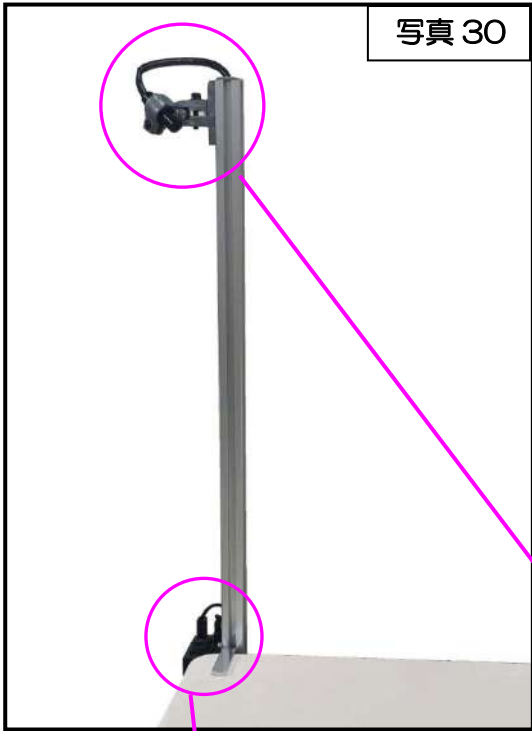
- ① 吸引台本体の上に移動メッシュを置きます。
- ② 中心口上下レバーのノブを左回り(時計と逆方向)に回して、中心吸引口が上部移動メッシュに当たる状態まで上げて、ノブを右回りに回して固定します。(写真29)
- ③ 基本的には埋込吸引台の中心吸引口が上部移動メッシュに当たった状態(上に上がった状態)でシミ抜き作業します。



中心吸引口が上に上がった状態

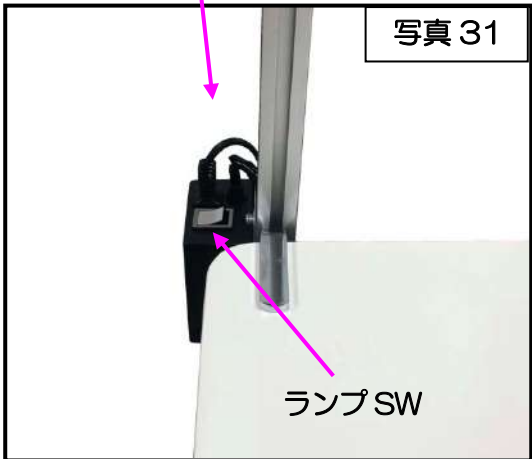
中心吸引口が下に下がった状態

照射ランプ取付方法



- ① 写真14を参考に、机の左奥の位置に照射ランプを取付けます。(写真 30)
- ② ランプ本体より出ている電気コードを、机下のコンセントに接続します。
- ③ ランプの電源を入れて(写真31)、埋込式吸引台の中心吸引口に対して、ランプの点が当たるように固定ネジを緩めてランプ本体を上下左右させて調整してから、再度固定ネジを締め付けて固定します。(写真 32)

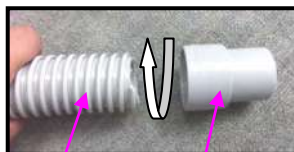
※ ランプの点は中心吸引口の端に合わすか、中心に合わすか、お好みで調整してご使用下さい。



吸引機本体 接続方法

(吸引側)

吸引口 ①
ホースを付けて吸引台と接続。



ホース

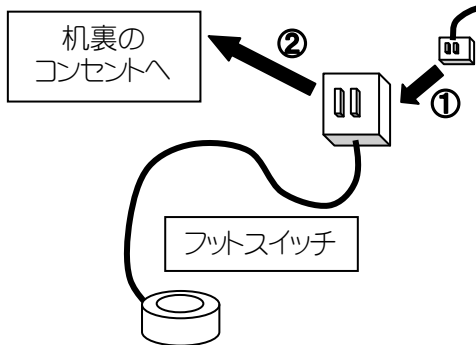
アダプター



アダプターを付けて
本体吸引口へ接続

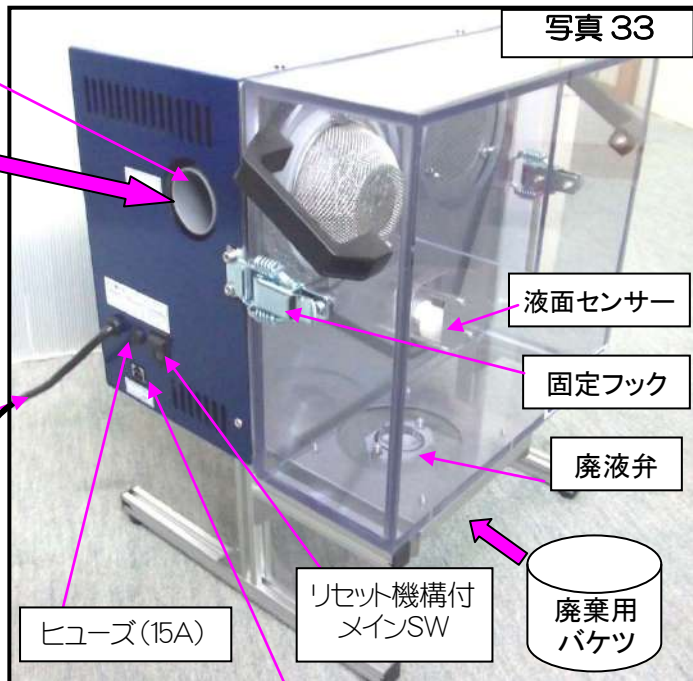
電源コードは付属のフットスイッチに接続してから①
机裏のコンセントへ接続して下さい②。

(注意)ドライヤーの配線と同じコンセントに
ならないように!!



机裏の
コンセントへ

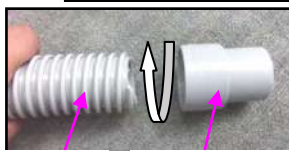
フットスイッチ



(排気側)

モーター冷却用 吸引口③
絶対にふさがらない様に注意!(週に一度の点検を)

臭気排気口 ②
ホースを付けて室外へ。



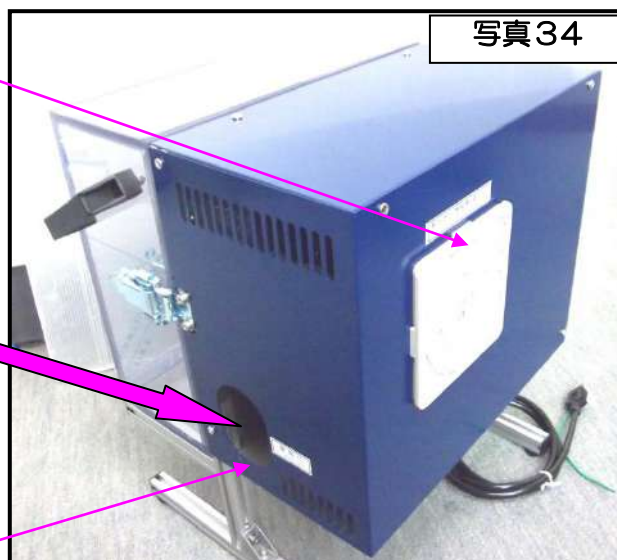
ホース

アダプター



アダプターを付けて
本体排気口へ接続

(排気ホースは、付属のインシュロックを使用して本体に固定します。)



予め本体側に付属のインシュ
ロックを通しておきます。




ホースにジョイントを付けて、
排気口へ接続します。



ホースが抜けないように
インシュロックで固定します。

{ 電源接続 }

- ① 付属のフットスイッチのコネクターに一度差し込んでから、机裏の100Vのコンセントに接続して下さい。
ドライヤースタンドと併用される場合は、机裏の1つのコンセントに同時に差し込まずに、吸引機本体とドライヤーのコードを2本別々のコンセントに差し込むようにして下さい。
(机裏コード1本の電気容量は計1500W迄の為、ドライヤー(1200W)と吸引機本体(1050W)を同時に差し込むと容量不足になります。)
- ② 吸引機本体のスナップスイッチはONにしておき、フットスイッチでON/OFFの操作をします。
- ③ 机に取り付けてある吸引カコントロール BOX のコードを吸引機本体に接続して下さい。
(コントロールBOXを接続しないと、吸引機本体は作動しませんのでご注意ください。)

吸引カコントロールBOX	写真 35
<p>【切替 SW】 MAX ⇒ モーターフル回転 調整 ⇒ 調整ダイヤルにより吸引力が調整可能(ランプ ON)</p> <p>【便利な利用方法】 薬品塗布や色差し等の時は、切替 SW を調整の位置にしてモーターの回転を下げておき、その後洗浄時にはMAXの状態にして、モーターをフル回転にご使用下さい。 (調整ダイヤルを回して回転を上げる必要がありません)</p>	<p>任意の位置に調整</p> 

{ ホース接続 }

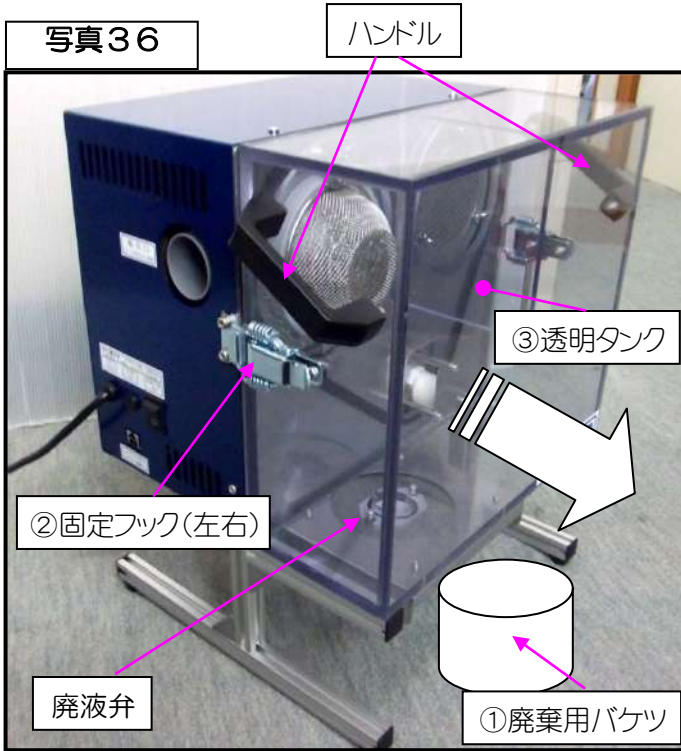
- ① 付属のホースを適当な長さに切って、アダプターに接続後(写真 33)の吸引口①に差し込み、吸引台と接続して下さい。
- ② 付属のホースをアダプターに接続後、(写真 34)の臭気排気口②に差し込み室外へ出して下さい。
ホースは出来るだけ短い方が吸引力が強くなります。
排気ホースはあまり上へ上げない様に、又、90°以上曲げない様にして下さい。
- ③ モーター冷却用 吸引口③(写真 34)は、モーター冷却装置の吸排気口になっていますので、絶対にふさがないようにして下さい。
特にフィルターにはごみがたまりやすいので、週に一度の点検をして下さい。
(モーター焼付の原因になります。保証期間内でも保証対象外になります。)

{ タンク内の液体 }

- ① 吸引した液体は透明タンク内に一時溜まり、バキュームを停止させた時点で廃棄弁が開き下の廃棄用バケツに排出されます。
よって、廃棄弁が汚れていたりすると上手く排出できませんのでご注意ください。
(廃棄弁のメンテナンスについては別項をご参照下さい)
- ② 使用頻度によりますが、バケツが一杯にならないように、溜まった廃液は頻りに捨てて下さい。
- ③ 万が一廃棄弁が上手く働かず排出できない場合(A)や、吸引を長時間止めずに使用した場合等、吸引した液体がタンクの許容量を超えると安全センサーが働きモーターが自動でストップします。
A) 廃棄弁が上手く働かない場合は、溜まった廃液を排出することが出来ません。
(写真 37)を参考にタンク内の廃液を廃棄して、タンク及び廃棄弁を洗浄してください。
- ④ 安全センサーが働いた場合、そのまま続けて使用することが出来ません。
その場合は、本体横のメインSWを一旦OFFにしてから再度ONして下さい。
(メインスイッチがリセット機能を兼ねています。)

【吸引機本体 各種メンテナンス ①】

写真36



【透明タンクのメンテナンス】

透明タンク内が汚れてくると、廃液弁にも汚れが溜まり吸引した液体が上手く排出されなくなりますので、汚れが目立ってきたら透明タンクを洗浄してください。

《透明タンク着脱方法》

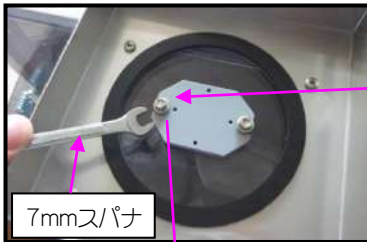
- ① 廃棄用バケツを外す。
- ② 左右の固定フックを解除します。
- ③ ハンドルをしっかり持って、手前方向にスライドさせて取り外します。
- ④ 水道水等で内部や廃液弁部をきれいに洗浄してください。
(廃液弁部の洗浄は別項目参照)
- ⑤ 取り付ける場合は①～③の逆の順序で取り付けして下さい。

注意

底部に少し廃液が残留している場合があります。透明タンクを取り外す時、その残留液が廃液弁よりこぼれない様にご注意ください。

写真37

透明タンクの底部



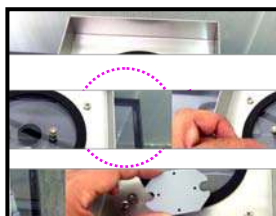
- ① どちらか片方のネジを外します。

注意

取り付ける時は必ず工具を使用してしっかりと締め付けて下さい。



- 緩み防止ナット
- ワッシャ
- ネジ



- ② 廃液弁を外して弁側・本体側の両方を洗浄します。

【廃液弁のメンテナンス】

- ① 廃液弁を止めているネジのどちらか片方を外します。
- ② 外した廃液弁を、Oリングが外れて紛失しないように注意しながら、きれいに洗って下さい。

注意

- ① 外れたOリングをはめる場合は、均等にしっかりとめ込んでください。
- ② 廃液弁を取り付ける場合は、必ず工具等を使用してネジをしっかり締め付けて下さい。締め付けが不十分ですと振動により廃液弁が外れ落ちてしまい、吸引力が極端に弱くなってしまいます。



注意

洗浄時Oリングを紛失しないようにご注意下さい。

【吸引機本体 各種メンテナンス ②】

写真38

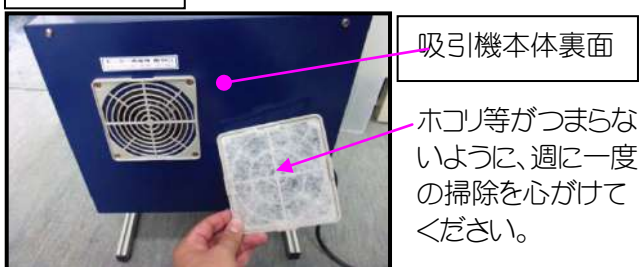


【気液分離装置のメンテナンス】

気液分離装置部分に汚れが付着していると、吸引力が弱くなったり、モーターに負荷が掛かったりしますので、分解洗浄して下さい。

- ① 蝶ネジを緩めるとストッパー金具が回り、ステンルケースとメッシュが取り外せます。
- ② 取り外したステンルケースとメッシュを、水道水等で洗浄して下さい。
- ③ 取り付けは逆の順序で行ってください。

写真39



【冷却口フィルターのメンテナンス】

本体裏面に設けてある、モーター冷却用空気取り入口部フィルターが目詰まりすると、モーターの冷却効率が悪くなり、最悪の場合モーターの焼く付きを起こす場合がありますので、週に1度の掃除をお願いいたします。

(モーター焼付の原因になります。)

保証期間内でも保証対象外になります。)

【吸引機本体 各種メンテナンス ③】

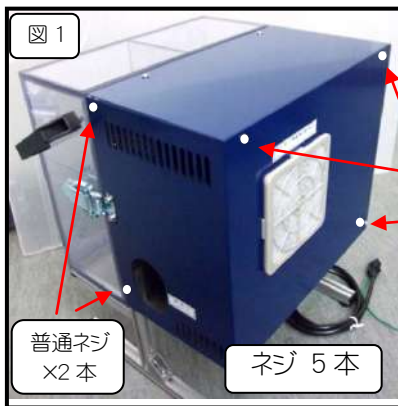
【カーボンブラシ 交換図】

吸引機本体が動かなくなった場合は、吸引機本体内部のモーターに付いているカーボンブラシの消耗が考えられますので下記の説明を参考にカーボンブラシを交換して下さい。

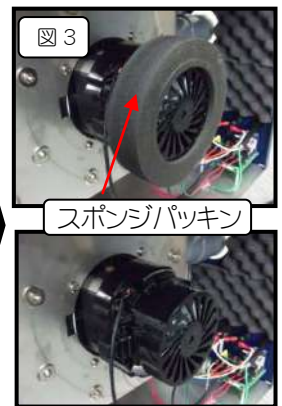
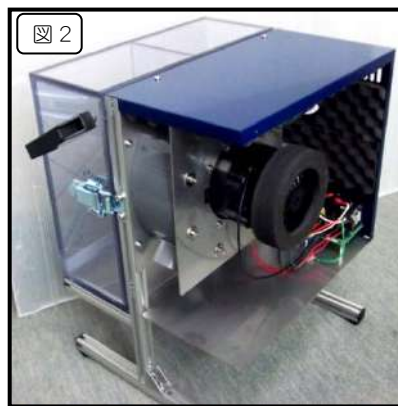
※ カーボンブラシを交換する前に下記の事項をチェックして下さい。

- ① 本体スイッチのON/OFF (吸引機本体側面に付いているスナップスイッチがONになっているか)
- ② フットスイッチの不良 (吸引機本体から出ている黒い電源コードを、フットスイッチを通さずに100Vのコンセントに直接差し込んで、吸引機本体が動けばフットスイッチの不良です)
- ③ ヒューズ切れ (吸引機本体側面に付いている15アンペアのヒューズが切れていないか?)

カーボンブラシを交換する場合は、必ず電源プラグを抜いてから作業を行って下さい。



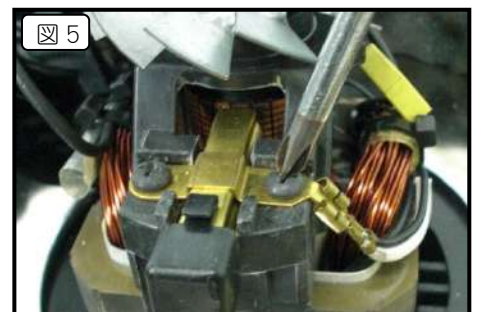
① (図1)の5箇所のネジを外すと、L型のふた部分が取り外せて、モーター本体が見えてきます。(図2)



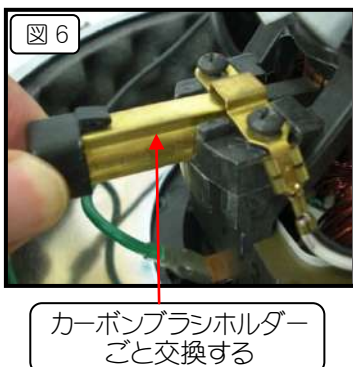
② モーター本体の上部に付いているスポンジパッキンを取り外します。



③ プラスチックカバー下部を指で外方向に引きながら押し上げるとカバーが外れます。(反対の部分も同じように外します)



④ カーボンブラシを押えている金具を、+ドライバーを使用して緩めてカーボンブラシを外し交換して下さい。



⑤ カーボンブラシを押えている金具を、+ドライバーを使用してしっかり締める。



⑥ コードを挟まないように注意しながらプラスチックカバーを閉めます。

⑦ 図3を参考に**必ず**スポンジパッキンを取り付けます。

19 ⑧ 図1を参考にL型のふたを取り付けます。

故障かな?と思う前に・・・(バキュームシステム編)

症 状	原 因	対 処 法
バキュームが動かない	本体側のメインスイッチがoffになっていませんか?	→吸引機本体のSWはONにしたまま、フットSWにてON/OFFします。(写真 33 を参考)
	吸引力コントロールBOXは接続されていますか?	→吸引力コントロールBOXが接続されてないと吸引機本体は動きません。写真 33 を参照に接続して下さい。
	ヒューズがきれていませんか?	→(写真 33)を参照。
バキュームが動かない	吸引した液体が満タンになって、液体センサーが作動してないですか?	→液体センサーが作動した後は、一度メイン SW を OFF/ONして安全装置をリセットさせないとバキュームは動きません。(写真 33)を参照。
	フットスイッチが故障していませんか?	→吸引機本体の電源コードを、フットスイッチのコネクターを通さずに直接コンセントに差し込んで下さい。この状態で動くようでしたら、フットスイッチの故障又は配線不良が考えられますので、フットスイッチを交換または配線チェックして下さい。(ナショナル まごの手フットスイッチ)
	フットスイッチの配線が間違っていないですか?	→吸引機本体の電源コードを、フットスイッチのコネクターを通さずに直接コンセントに差し込んで下さい。この状態で動くようでしたら、フットスイッチの故障又は配線不良が考えられますので、フットスイッチを交換または配線チェックして下さい。(ナショナル まごの手フットスイッチ)
バキュームが動かない	カーボンブラシが接触不良又は消耗していませんか?	→上記確認をしても動かない場合はカーボンブラシの接触不良又は消耗が考えられますので付属のカーボンブラシと交換又は点検してください。(説明書は付属のカーボンブラシに同封) 接触不良の場合は、別紙説明書を参考にしてカーボンブラシを一度取り外して、ブラシホルダー内部のカーボンのカスをエアで吹き飛ばすか、掃除機等で吸い取ってからカーボンブラシを取付けて下さい。
	バキュームの吸引力が弱い	→(写真 37)を参考に、気液分離装置を掃除して下さい。汚れがひどい場合は交換をお勧め致します。 →振動等により取り付けネジが緩んで、廃棄弁が落下等して廃棄弁が上手く作動していないと、透明タンク内の真空が保たれずに吸引力が極端に弱くなってしまいます。(写真 37)を参考に確認・取り付け洗浄して下さい。 →(写真 33)を参考にコントローラーを調整して下さい。
	気液分離装置が目詰まりしていませんか?	→(写真 37)を参考に、気液分離装置を掃除して下さい。汚れがひどい場合は交換をお勧め致します。
透明タンク下部の廃棄弁は、正常に機能していますか?	→振動等により取り付けネジが緩んで、廃棄弁が落下等して廃棄弁が上手く作動していないと、透明タンク内の真空が保たれずに吸引力が極端に弱くなってしまいます。(写真 37)を参考に確認・取り付け洗浄して下さい。 →(写真 33)を参考にコントローラーを調整して下さい。	
吸引力コントローラーが弱くなっていませんか?	→(写真 33)を参考にコントローラーを調整して下さい。	
モーターが動いているのに吸引しない	吸引のホースが外れていませんか?	→(写真 33)を参考に、本体と吸引台をしっかりと接続して下さい。
ドライヤーが動かない	ドライヤー本体のスイッチがOFFになっていませんか?	→グループではさまれているドライヤー本体のグループ部のスイッチをONにして下さい。
	フットスイッチが故障していませんか?	→(写真 33)を参考に確認して下さい。ドライヤースタンドから出ている電源コードを、フットスイッチのコネクターを通さずに直接コンセントに差し込んで下さい。この状態で動くようでしたら、フットスイッチの故障が考えられますのでフットスイッチを交換して下さい。(ナショナル まごの手フットスイッチ)
	ドライヤーが故障していませんか?	→ドライヤースタンドのグループよりドライヤーを取り外して、直接コンセントに差し込んで動かなければドライヤーの故障が考えられますので交換して下さい。(市販のヘアードライヤーでOKです)
ドライヤーの温風が出ない	ドライヤー本体のスイッチがCOOLになっていませんか?	→HOTに切り替えて下さい。
	ドライヤーのヒーターが切れていませんか?	→センサーが働いて、一時的に切れる場合がありますが、しばらくすると直ります。時間が経っても直らない場合はヒーターの断線が考えられますので、新しいものと交換して下さい。(市販のヘアードライヤーでOKです)

ハイパーシルクガン(エア付・エア無)取扱説明書

Type/HSG-101

Type/HSGA-201

この度は、ハイパーシルクガンをお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。
未長く御愛用頂くために、下記の使用法をよくお読みの上、正しくご使用下さいますようお願い致します。

【ハイパーシルクガンの特徴】

ハイパーシルクガンは、従来のシルクガンシリーズと比べると、ポンプ形式変更により霧の密度が濃く、噴霧圧力が格段に上がっております。よって設定回転数が低く設定されており、一瞬“力が弱い？”と感じてしまいがちですが、実際には低回転でも従来型よりも、よりよく落とします。

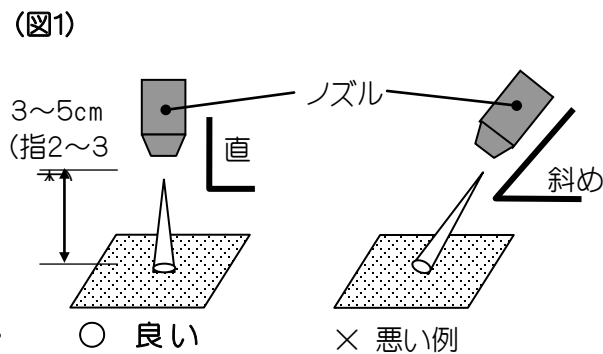
“静かによく落とす” とご理解頂ければ幸いです。

◎ 角度及び距離 (図1)

- 生地より3~5cmほど離して、また生地に対して液が垂直に当たるようにしてご使用下さい。生地に対して液が斜めに当たったり、生地との距離が近すぎたりすると、生地よれ等の原因にもなりますので、ご注意下さい。

◎ 手順 (図2)

- シミ、汚れの中心からいきなり処理すると、シミ、汚れが周りに広がる場合がありますので、汚れに対して周りから中心へ絞り込む感じに落としていく様にとすると、汚れが周りに広がりにくく効率の良いしみ汚れ落としが出来ます。

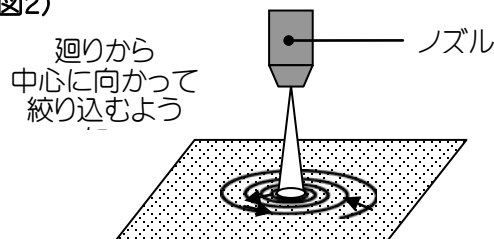


◎ ノズルについて (図3)

- ノズル本体を左右に回すことにより、霧の状態が調整出来ます。生地厚や汚れ度合い等の状況によって、調節してご使用下さい。
- シルクビートガンには、霧を絞りすぎて生地を痛めないために、調整可能なストッパーが付いています。詳しい調整の方法は別紙ノズルストッパー設定方法を御覧下さい。

◎ 圧力調整 (図5)

- シルクビートガンのBOXに付いているダイヤルによって、圧力を簡単に調整することが出来ます。生地厚や汚れ度合いによって、ダイヤルを調整しながらご使用下さい。



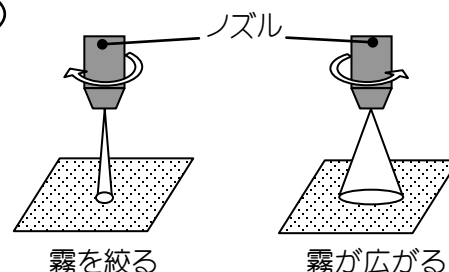
◎ エア部(エア付)

- 右手でハイパーシルクガン(エア付)を持って頂くと、親指に当たる所にあるスイッチがエア用のスイッチです。スイッチを押すことにより、エアのON/OFFが出来ます。
- コンプレッサーの圧力は5Kgf/cm以下で御使用下さい。

◎ ドレン液 (図7)

- ハイパーシルクガンはポンプ内のドレン止めOリングによって基本的にはドレン液が出ない構造になっていますが、経年使用によりOリングが消耗した場合は、ヘッドとグリップの間から液が漏れてきます。その場合は(図7)を参考に、ドレン止めOリングを(図3)交換して下さい。

(頻繁にドレン止めOリングが破損又は消耗してドレンが出るようになる場合は、ポンプ内部の異常が考えられますのでその場合はお手数ですが販売店等に御連絡下さい。)



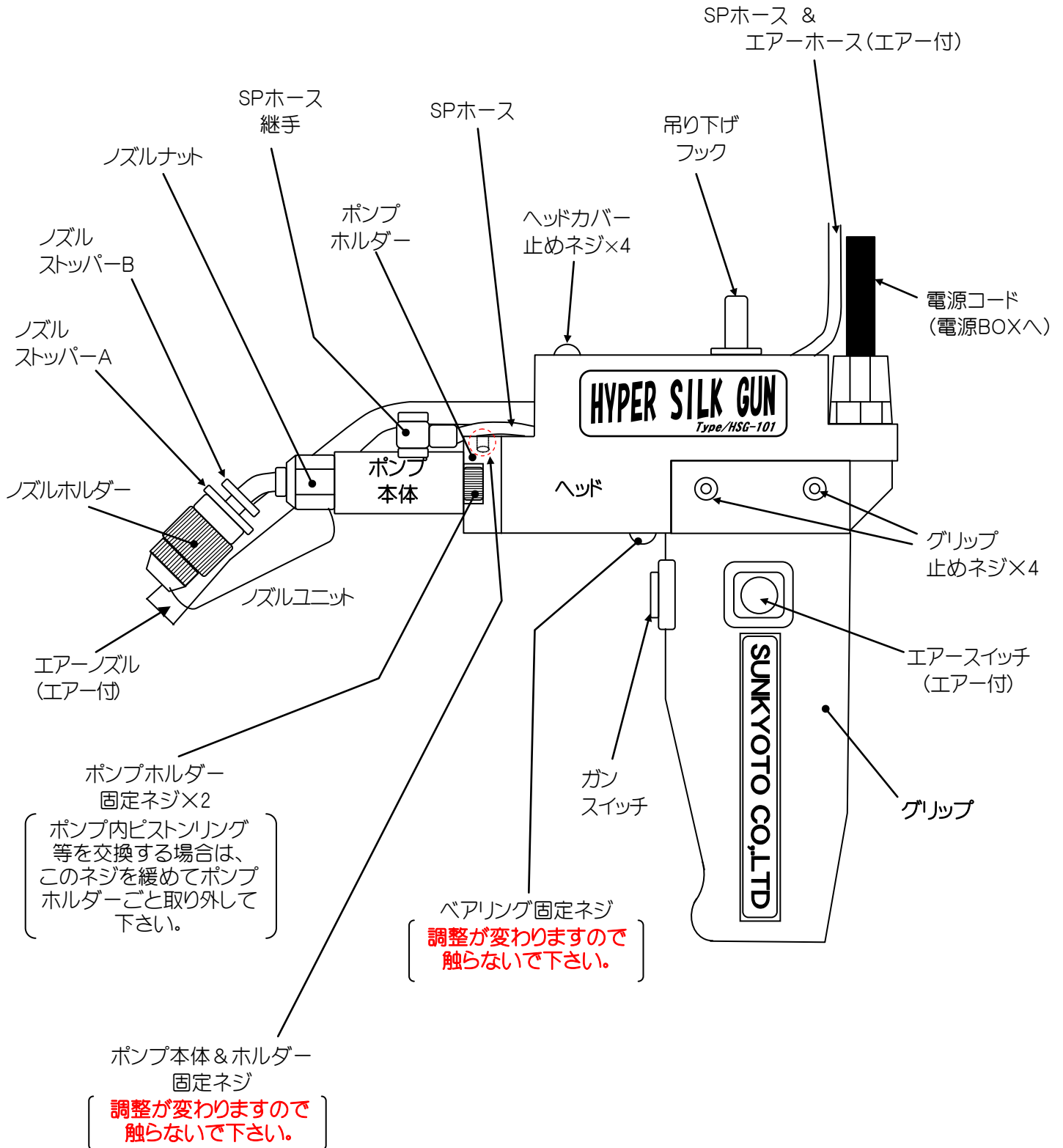
◎ コントロールBOX (図6)

コントロールBOX側面のDC Inコネクタ(2箇所)に、付属の変圧器を必ず2個共接続し、100V電源へ差し込んで下さい。2個接続しないとガンが正常に動作しなくなります。

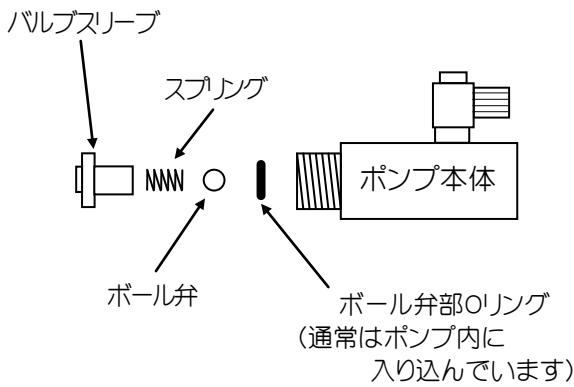
- コントロールBOXには、内部に異常が発生すると安全装置が働き、自動的に電源をカットする機能が付いています。安全装置が働くとパネル前面のアラームランプが点灯しますので、その場合は一度POWER SWを切り、再度入れ直して下さい。(リセット機能が付いています)(何度もアラームスイッチが点灯する場合は、内部の故障が考えられますので、お手数ですが販売店等に御連絡下さい)

【ハイパーシルクガン 基本図】

【ガン本体】 (図4)



ポンプ内ボール弁 分解図 (図6)

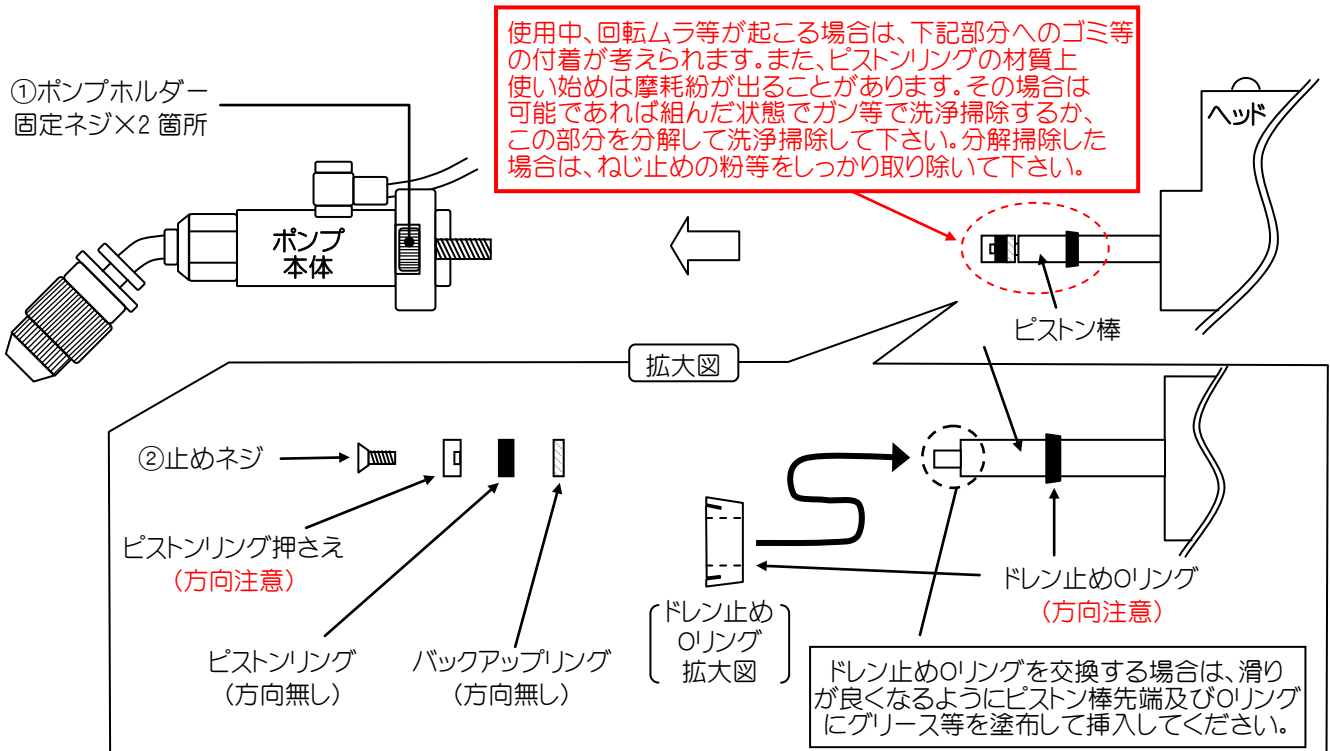


液が上がらない又は液が下がってしまう場合は、ボール弁部のごみ付着等が考えられますので、左図を参考にして、ごみを取り除いて下さい。

- ① ノズルナットをゆるめてノズルユニットをポンプ本体より外して下さい。(図4参照)
- ② ポンプ先端よりバルブスリーブを外して下さい。
- ③ ポンプ中にスプリング & ボール弁が残っているようでしたら、それらを取り出して、ボール弁に付着している異物等をきれいに取り除いて下さい。
- ④ 念の為、ポンプの中も綿棒で掃除して下さい。
- ⑤ ボール弁部Oリングは基本的にはポンプ内に入り込んでいますが、状況によっては細い棒状のようなもので取り出して、内部も掃除して下さい
- ⑥ ①～③の逆の順で組んで下さい。

ピストンリング & ドレン止めOリング 交換図 (図7)

【ピストンリング及びドレン止めOリングは消耗品とお考え下さい】



【ピストンリング交換方法】

噴霧圧力が落ちた等、ガンに不調が出た場合、ピストンリングの消耗が考えられますので交換して下さい。

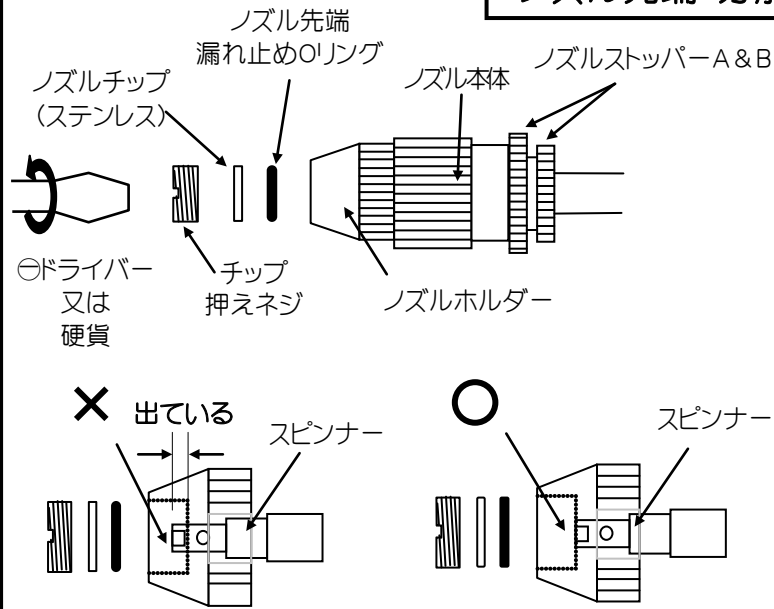
- ① ポンプホルダー固定ネジ2箇所を緩めて、ヘッドよりポンプ本体を引き抜いてください。
- ② ②の止めネジを緩めて、ピストンリング押さえ・ピストンリング・バックアップリングを外して下さい。
- ③ 念のため、細部を清掃して下さい。
- ④ 新品のピストンリングと交換して下さい。
(バックアップリングは基本的にはそのまま使用できますが、破損等あるようでしたら交換をお勧めします。)
- ⑤ ②で外した部品を順序を間違えないように取り付けて下さい。
- ⑥ ヘッドへ挿入する前に、滑りを良くするためにピストン棒各部へオイル又はグリースを塗布して下さい。
- ⑦ ポンプ本体をヘッドに取り付けてポンプホルダー固定ネジをしっかり締め付けて下さい。

【ドレン止めOリング交換方法】

経年使用によりOリングが消耗してヘッドとグリップの隙間から液が漏れてきた場合は上図を参考にして、ドレン止めOリングを交換して下さい。

- ① ポンプホルダー固定ネジ2箇所を緩めて、ヘッドよりポンプ本体を引き抜いてください。
- ② ②の止めネジを緩めて、ピストンリング押さえ・ピストンリング・バックアップリングを外して下さい。
- ③ 先端の細い物で、消耗したドレン止めOリングを取り外して下さい。
- ④ Oリング及びピストン棒に滑りが良くなるようにグリース等を塗布し、拡大図を参照に新しいドレン止めOリングが変形しない様に注意しながら、ピストン棒に挿入して下さい。又方向にも注意して下さい。少し広がっている面がポンプ本体側になります。(拡大図参照)
- ⑤ ②で外した部品を順序を間違えないように取り付けて下さい。
- ⑥ ポンプ本体をヘッドに取り付けてポンプホルダー固定ネジをしっかり締め付けて下さい。

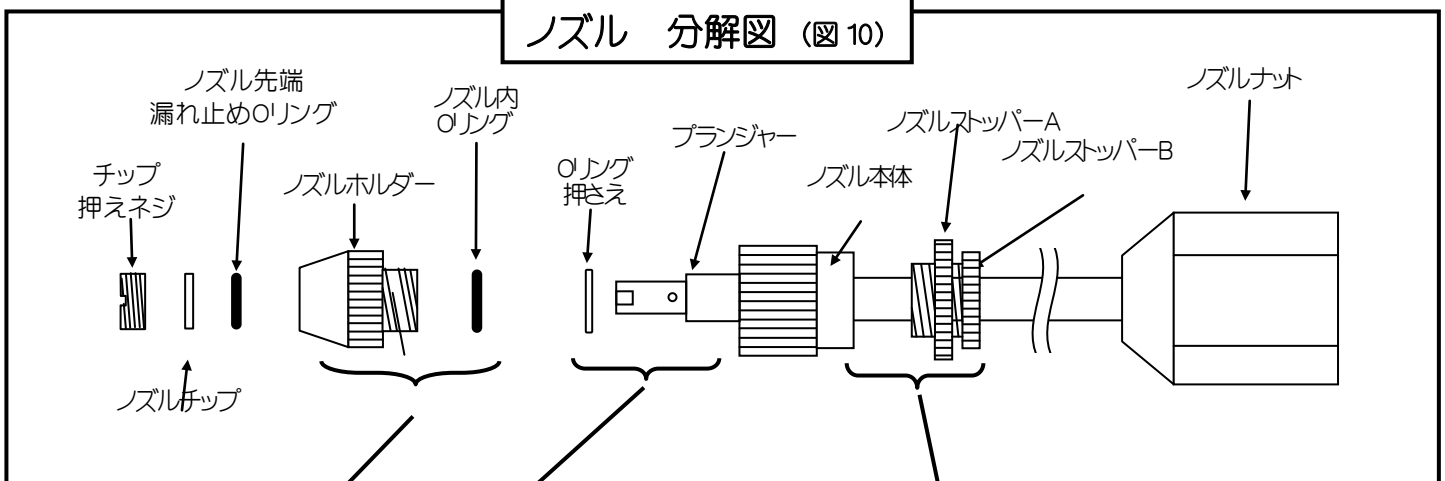
ノズル先端 分解図 (図9)



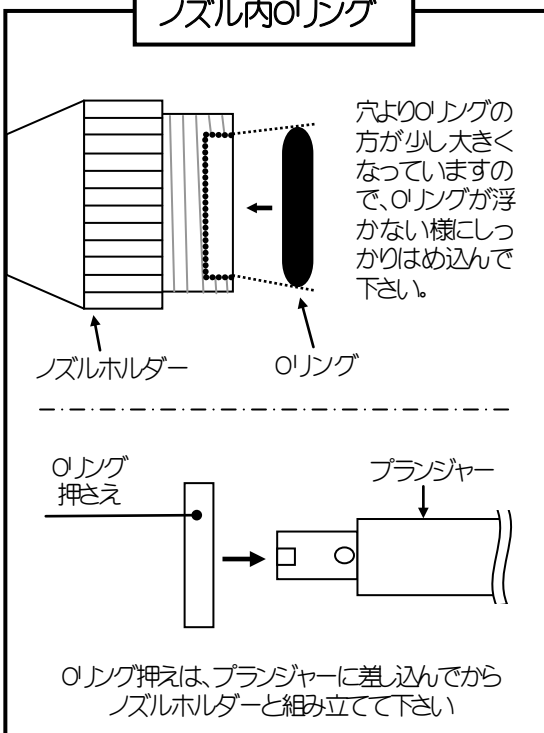
霧が割れたり、液が急に出なくなった場合はノズル先端チップにゴミが詰まった可能性がありますので、左図を参考に分解して頂き、異物を取り除いてください。

- ① ノズル本体を、霧を絞る状態方向に回します。
- ② ノズルホルダーをしっかり固定して頂き、チップ押さえネジの先端よりOドライバーや硬貨等でネジを緩めて外してください。
- ③ ノズルチップ・ノズル先端パッキンを取り出し、ノズルホルダー内のゴミを綿棒等を使用して取り除いて下さい。穴が詰まっている場合は、針などで穴を傷めない様にして取って下さい。
- ④ 左図を参考にして、ノズル本体を霧を絞る状態方向に回して、パッキン・チップを入れて押えネジで締め付けたとき、プランジャーがノズル先端パッキンに干渉しない事を確認しながらチップ押えネジをしっかり締め付けて下さい。

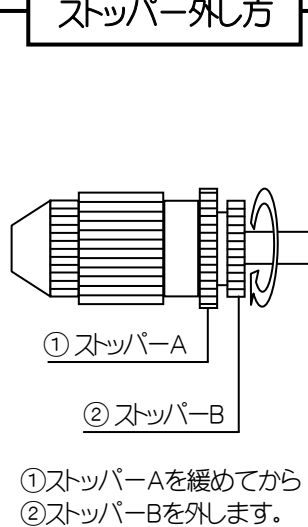
ノズル 分解図 (図10)



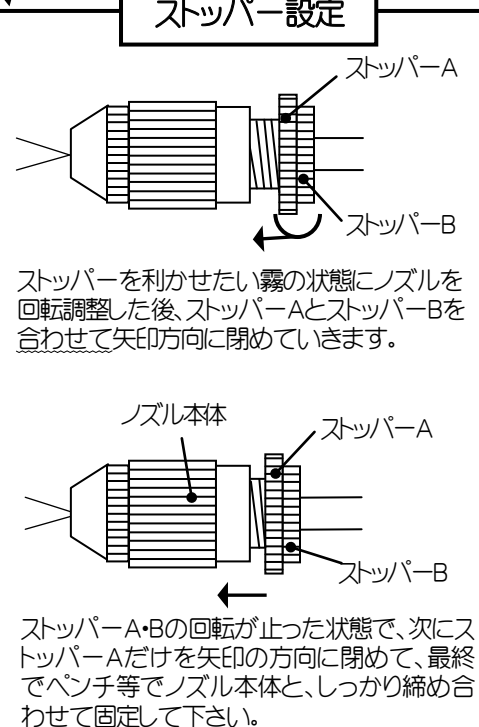
ノズル内Oリング



ストッパー外し方



ストッパー設定



故障かな？ と思う前に・・・

症 状	原 因	対 処 法
☆モーターの回転数が落ちる！	★使い始めは機械各部が慣れていない為 回転が上がりにくいことがあります ★ご使用の液に粘度がありませんか？	◎液を通さずに15～20秒カラ打ちして下さい。 ◎粘度の少ない液をご使用下さい。
☆コントロールBOXの電源が入らない！ ☆シルクガンの回転が遅い！	★コンセントが抜けていませんか？ ★ヒューズが切れていませんか？ ★変圧器の接続が1台ではないですか？	◎コントロールBOX背面のヒューズを交換してください。(2アンペア) ◎変圧器1台の接続では電気容量が足りません。必ず2台共接続してください。
☆コントロールBOXの電源は入っているのに、シルクガンが動かない！	★BOXとシルクガンのコードが確実に接続されていますか？ ★ノズルの穴がふさがっていませんか？ ★アラームランプが点いていませんか？	◎接続部を確認してください。 ◎ノズル分解図を参考に、ノズルホルダー内やノズルチップ部の異物を取り除いてください。 ◎一度主電源をOFFにして3秒程してから再度電源をONして下さい。(リセット機能) (繰り返しアラームが点灯する場合は、BOXまたはガン本体の異常が考えられます。ご使用をお止め頂き販売店様又は当社にご連絡下さい。)
☆霧の方向が急に変わる、霧が割れる ☆ノズルの繋ぎ目から液漏れがする！ ○ノズルナットの部分 ○ノズル先端部分 ○ノズルストッパーの部分	★ノズルの中に異物が入ってませんか？ ★ノズルナットがしっかり締まっていますか？ ★チップ押さえネジがしっかり締まっていますか？ ★ノズル本体とノズルホルダー間がゆるんでいませんか？ ★ノズル内Oリングが消耗していませんか？	◎ノズル先端分解図を参考に、ノズルホルダー内の異物を取り除いてください。 ◎14mm スパナ等でポンプ本体にしっかり締めつけて下さい。 ◎ノズル先端分解図を参考に、一度チップ押さえネジを緩めて、プランジャーの状態を確認してからOドライバー等でしっかり締め付けて下さい。 ◎ノズル本体とノズルホルダー間を2本のペンチ等でしっかり締めて下さい。 ◎ノズル分解図を参考に、ノズル内Oリングを交換してください。
☆液が上がってこない！	★ノズルの穴がふさがっていませんか？ ★ポンプ内ボール弁にごみがついていませんか？	◎ノズル内の異物を取り除いてください。 ◎ポンプ内ボール弁分解図を参考に、ゴミを取り除いて下さい。
☆液が下がる！	★ポンプ内ボール弁にごみがついていませんか？ (ポンプ内の真空が保たれずに液が下がってしまいます。) ★ホースの何処かで穴が開いていませんか？ (ポンプ内の真空が保たれずに液が下がってしまいます。)	◎ポンプ内ボール弁分解図を参考に、ゴミを取り除いて下さい。 ◎ガンを打っている状態で、ホース内に気泡が発生している箇所があるようでしたらホースを交換してください。
☆水圧が弱くなった！ ☆液が出なくなった！ ☆回転にムラが出てきた！	★コントロールBOXの圧力調整ダイヤルが動いていませんか？ ★ピストンリングの不具合が考えられます。 ★ピストンリングのごみ等の付着が考えられます。	◎コントロールBOXの圧力調整ダイヤルを確認して下さい。 ◎(図7)ピストンリング交換図を参考に、リング部の清掃又は交換して下さい。
☆ポンプとヘッドの継ぎ目より液が出てきた！	★ドレン止めOリングの消耗が考えられます。	◎ドレン止めOリング交換図を参考に、新しいドレン止めOリングと交換して下さい。
☆エアーが出ない ☆エアーが止まらない	★エアーノズルが何かに当たり変形等して詰まったりしていませんか？ ★エアーの圧力が5Kgf/cm 以上に上がっていませんか？	◎ノズルの交換が必要になります。お手数ですがご購入店に修理ご依頼ください。 ◎コンプレッサー本体で減圧できない場合は弁等を使用して5Kgf/cm 以下に下げて下さい。

警告

- ☆ 引火性のある液は危険ですので、ご使用にならないで下さい。
- ☆ ハイパーシルクガンの噴霧液は高圧力ですので、お子様が誤って手の触れる事のない様御注意下さい。
 - ☆ ノズルの先を人の顔などに向けないように、御注意下さい。
 - ☆ ハイパーシルクガンを通気以外の目的で使用しないで下さい。
- ☆ ハイパーシルクガンは精密機械なので、指定箇所以外は絶対分解等しないでください。又指定箇所の部品交換時は必ず電源プラグを抜いてから行って下さい。

パワースチームガン 取扱説明書(オプション)

この度は、パワースチームガンをお買い上げ頂き、誠に有難う御座います。
 末永くご使用頂く為に、下記の使用法を良くお読みの上、正しくご使用下さいませようお願い致します。

【特 徴】

パワースチームガンは、ボイラー等の配管が一切不要で、100Vの電源だけで柔らかくて強力な蒸気を安定して連続的に出せます。

又、蒸気量の調節やコテとスチームの切替えも、ボリューム調整で簡単に出来ますので、黄変抜きや残留色素抜き、又、その他熱を必要とする薬品などの処理に、変化を確認しながら使用できます。

【付属品及び各部名称】

基本図 【01】



パワースチームガン 【Type PST-01】
 AC100V/60～500W (FUSE 6A)

基本図 【02】

(A液9 : B剤10の割合で混合して下さい。)

黄変抜き液A 黄変抜き剤B



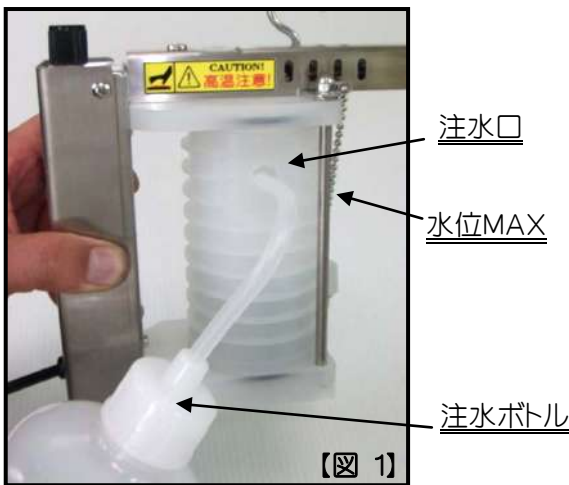
まず はじめに…!!

パワースチームガンは、伝導効率を上げて蒸気を発生させる為に
タンク内に少量の塩を添加します。

この塩の量によって蒸気量に変化いたしますので、
必ず下記の取扱説明をよく読んで正しくご使用頂きますようお願いいたします。

【使用法】

商品納品時には予め適量の塩がタンク内に添加されております。
使い始めは水（精製水等）のみを注入して下さい。



① まず、電源を入れる前に、注水口キャップを取り外して、注水ボトルで注水口よりタンクへ水のみを注入して下さい。（必ず水位を守って下さい。入れ過ぎるとノズルから吹き出る恐れがあります。）

② 注水口キャップをしっかりと閉めて、電源を入れて下さい。

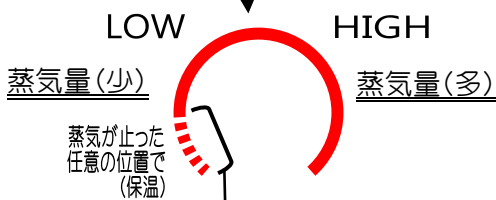
【注意】

水は必ず精製水等をお使い下さい。
水道水を使うと水中の不純物等がヒーターに付着して蒸気の出が悪くなる事があります。

③ 電源を入れた後、ボリュームを HIGH の位置まで回して下さい。（LOW の位置のままではタンク内の水が沸騰しません）

④ 電源を入れ始めた時のみ蒸気発生まで 2 分程掛かります。使い続ける時は、その都度電源を切らずに、コントロールダイヤルを保温の位置（蒸気がちょうど止まった位置）にしておくとタンク内の水が温められた状態になり、コントロールダイヤルを回すとすぐに蒸気が出てきます。

※ダイヤルを蒸気がちょうど止まった位置以上に左に回し過ぎると、タンク内の水が冷めてしまいすぐに蒸気が出なくなります。



【保温状態】
蒸気がちょうど止まった位置にしておくと、次回使用時にすぐに蒸気が出てきます。

注意！《LOW (保温) の範囲内で調整が出来ない場合…》

◎ 保温の範囲なのに蒸気が出てしまう。

の場合は、次ページの【タンク内の塩分濃度調整】を参考に再調整して下さい。

⑤ コントロールダイヤルを回すことによって蒸気の調整が簡単に出来ます。用途に合わせて調節してご使用下さい。またノズルの先端は温度が上がっておりますので、コテとしてもご利用できます。作業内容によって使い分けて下さい。

【タンク内の塩分濃度調整】



◎通常使用時は

水(精製水)のみを入れて下さい。

- ① 納品時にはタンク内に適量の塩が投入されておりますので、水(精製水等)のみを入れて下さい。
- ② 通常使用にてタンク内の水が無くなったり減ってきた場合も、水(精製水等)のみを入れて下さい。

注意！

リセット水を注水すると、塩分濃度が高くなり保温状態にしても蒸気が出続けたり、ダイヤルをHIGHまで上げた時にヒューズが切れたりします。

《こんな場合は下記を参照にタンク内の塩分濃度を調整して下さい》

症 状	原 因	対 処 法
◎タンク内の水を捨ててしまった。 ◎タンクに水を入れすぎて、沸騰したときにノズルから吹きこぼれてしまった。	塩分濃度が変化してしまいます。	<p>下記の手順にて、タンク内の塩分濃度をリセットして下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 一度タンク内の水を捨てて下さい。 ② タンク内を水で2～3回すすいでしっかりと洗浄して下さい。 ③ 付属のリセット水を、残さないように1本全てタンクに注水して下さい。 ④ 規定量を超えないように注意しながら水(精製水等)を注水してください。
◎ダイヤルを保温の状態にしても蒸気が出る。	塩分濃度が濃くなり、蒸気発生率が高くなっています。	
◎電源を入れるとヒューズが切れる	塩分濃度が濃くなり、通電性が高まり規定よりも多くの電気が流れている。	
◎ダイヤルを保温の状態から上げて、すぐに蒸気出ない。	塩分濃度が薄くなり、蒸気発生率が低くなっています。	

【薬品の使用法】

—薬品の使用方法については31ページをご参照ください。—

故障かな？ と思う前に・・・(パワースチームガン編)

症 状	原 因	対 処 法
電源を入れても蒸気が出ない	① 電源が入っていますか？ ② コントロールダイヤルが 上がってますか？ ③ ヒューズが切れていませんか？	①・②基本図 01 を参考に確認してください。 ③ タンク内の塩分濃度が濃すぎて規定以上の電流が 流れてしまっています。塩分濃度調整を参考に濃度を リセットしてからヒューズを交換して下さい(6A) ①②③で解消出来ない場合は断線等の故障が考えられま す。お手数ですがご購入店にご連絡頂きますようお願いいた します。
ノズルから水滴が落ちる	① 電源入れて暫くの間は、ノズル自 体が完全に温まっていない為に 水滴が落ちる事があります。 ② タンク内の水の量が多くて溢れ ている可能性があります。	① 電源を入れてから5～10分ほどでノズルが温まり、その 後は水滴は出なくなります。 ② タンク内の水の量を規定値以下に調整して下さい。 ①②で解消出来ない場合はノズル内のヒーターの故障が考え られます。お手数ですがご購入店にご連絡頂きますようお願い いたします。
電源を入れるとヒューズが切れる	タンク内の塩分濃度が濃すぎて規定以上の電流が流れてしまっています。	前ページの【タンク内の塩分濃度調整】を参考に塩分濃度をリセットしてからヒューズを交換して下さい(6A)
ダイヤルを保温の状態にしても蒸気が出る。	塩分濃度が濃くなり、蒸気発生率が高くなっています。	前ページの【タンク内の塩分濃度調整】を参考に塩分濃度をリセットして下さい。
ダイヤルを保温の状態から上げてても、すぐに蒸気が出ない。	保温状態にしておく時。コントロールダイヤルを必要以上に左に回していませんか？	ちょうど蒸気が止まった状態が最適な保温状態となります。調整してご使用下さい。
	塩分濃度が薄くなり、蒸気発生率が低くなっています。	前ページの【タンク内の塩分濃度調整】を参考に塩分濃度をリセットして下さい。
<p>上記内容からお解かり頂けるように、より良い蒸気発生には塩分濃度に非常に左右されます。 【タンク内の塩分濃度調整】を良くお読み頂き、最適な状態でご使用頂きますようお願い致します。</p>		

御注意

- タンク内に入れる塩の量は非常に重要ですので“タンク内の塩分濃度調整”をよく読んで必ずお守り下さい。
- タンクに入れる水は、必ず精製水をお使い下さい。水道水を使うと水中の不純物等がヒーターに付着して蒸気の出が悪くなる事があります。(保障対象外となります)
- 安全弁の紛失にはご注意ください。開いたままの状態ですと本体を傾けた状態で熱湯がこぼれて火傷をする恐れがあります。
- 一日の仕事が終わった後は、必ず電源を切って下さい。
- コテ先及びその周辺は非常に高温になっていますので、取扱には十分注意して下さい。
- パワースチームガンをシミ抜き以外の目的で使用しないで下さい。
- 本体のタンク内に設置されております電極棒は構造上消耗品となります。使用頻度にもよりますが、およそ2年に1度点検にお出し下さいますようお願い申し上げます。

No.104-A・B・C(黄変抜き薬品) の使用法

付属の薬品は、主に黄変抜き用としてご使用下さい。

No.104-A・Bセット(黄変取り)は、すべての生地に使用できますが、ものによって色が抜ける場合もありますので必ず目立たない所でテストを行ってから使用して下さい。
(カシミヤ・アンゴラ・パシュミナ・モヘア等は深追いしない事!)

No.104 は(A液 9):(B剤 1)の割合で混合して使用します。(目安で結構です)

(A&Bの混合液)及び(精製水で薄めたC)は時間が経過すると徐々に効果が弱くなります。
より良い作業をしていただく為にも1日毎に作り直して頂く事をお勧めいたします。

No.104(黄変抜き)の通常的使用方法

☆ No.104-A & B 混合液(酸性系薬品)

テストを行っても地色に異常がない場合は、シミの部分にNo.104混合液を筆等で塗布し、ハンディー又はパワースチームガンで蒸気を当てます。

スチームガンの蒸気は高温ですので、生地によっては溶ける恐れがありますので、生地にノズルを近づけ過ぎない様に注意して下さい。(3~4cm位でOK)

ききめが弱い場合は、筆で塗布しながら蒸気を当てると速く漂白できます。

☆ No.104-C 中和

漂白作業が終了しましたら、精製水等で5~10倍に薄めたNo.104C(中和剤)又はサンサワー(精製水等で10倍位に薄めたもの)や、氷酢酸(2~3%)で中和してから、バキュームで吸引させながら水性のシルクビートガンで十分にすすいで下さい。

No.104混合液で漂白して若干黄ばみが残る場合でも、サンサワー(精製水等で10倍位に薄めたもの)や氷酢酸(2~3%)の酸性系で中和すれば黄ばみを除去できる場合があります。

※ ウール等の生地には色の発色をよくする為、蛍光剤を含んだものがあります。

この場合、酸化漂白すると逆に黄色く変色することがあります。

これを、戻すにはスポットターAか氷酢酸2%で中和すれば黄変と同時に変色も除去出来ます。

No.104—A & Bセット(黄変取り)の上手な使用方法 (色素の若干弱いもの)

色素の弱いものは、漂白しようとする場所を最初に水で濡らしておいてからNo.104混合液を筆で塗布しスチームガンにて蒸気をあてます。

No.104原液で漂白するよりも、水で濡れている分薄まり、やわらかく漂白できます。(ボカシ抜き)

色を飛ばさないコツ

- ① 必ず、目立たない所でテストをする事。
- ② たくさんシミがある場合、小さい所からスタートする事。
- ③ 小さいシミがない場合、シミの一部でテストをする事。
- ④ 生地の温度が染の温度を超えない事。(蒸気を当てすぎない。時々、生地の温度をさます事。)
- ⑤ シミの部分より大きめに生地を濡らしてから漂白剤を塗布する。(ぼかし抜き)

— MEMO —

A large rectangular area with a solid top and bottom border and horizontal dashed lines inside, serving as a memo template. The dashed lines are evenly spaced and extend across the width of the rectangle.

京都ならではのシミ抜き薬品・材料・小物等
いろいろ取り揃えております。
商品は当社ホームページからでも
ご購入頂けます。

URL－<http://www.sunkyoto.com>

また、その他お困りの事が御座いましたら
お気軽にお問い合わせ下さいませ。

〒600-8885 京都市下京区西七条南月読町 71-6

株式会社 サン京都

TEL (075) 315-2808 (代) FAX (075) 321-1895 (代)

《加工部専用》

TEL (075) 325-5678 FAX (075) 325-5677

URL－<http://www.sunkyoto.com> MAIL－info@sunkyoto.com